

【曲目解説】

●組曲「マスクとベルガマスク」(フォーレ)

フォーレは、1920年にレジョン・ドヌール勲章を受けていますが、その年に、この管弦楽のための組曲「マスクとベルガマスク」が作曲されました。その曲名は、さきにフォーレの書いた歌曲「月の光」の詩の中から取られたものです。この「月の光」という歌曲は、ワトーの絵に靈感を得たヴェルレーヌの詩に作曲した作品です。このような由来の題名を持つこの管弦楽組曲は、しかしながら、ワトー、ヴェルレーヌ、そしてフォーレという組み合わせから予感される陰影に富んだ雅な抒情性とは異なる喜遊曲的傾向の作品となっています。

全曲は、序曲と3曲の古典舞曲(メヌエツト、ガボツト、パストラール)から成っています。フォーレは、この曲で、18世紀の作曲家の手法によって、軽妙な仮面舞踏、ひなびたベルガモ舞踏、道化と温もりを描いているようです。そして「田園曲」に至って、和声と色彩が微妙に移り変わる、いかにもフォーレらしい音楽が展開され、深い幸福感に包まれて締め括られます。

なお、この曲は、1980年9月6日にアンサンブル・ディマンシュが第7回演奏会で日本初演しました。とても懐かしい思いで再演致します。(Mont)

●小組曲(ドビュッシー / ビュッセル編曲)

「小組曲」は、クロード・ドビュッシーが1888年から1889年にかけて、ピアノ連弾曲として作曲した作品で、後にそれをアンリ・ビュッセルが管弦楽用に編曲しました。編曲者のビュッセルは、作曲家・指揮者として活躍した人物で、ドビュッシーのオペラ「ペレアスとメリザンド」の初演時には、その合唱指揮をするなどドビュッシーと交流のあった音楽家です。この管弦楽版には、ドビュッシーの音楽への深い理解が感じられます。

「小舟にて」;フルートによる美しいメロディーで始まります。やがて、揺れ動く波を思わせる曲想が現れ、再び冒頭のメロディーが繰り返された後に、静かに閉じられます。モネの絵画を連想させるような、光に満ち溢れた優雅な曲です。

「行列」;冒頭、木管楽器の躍動的で快活な主題が示され、シンコペーションを基調とした中間部を挟んで再び最初の主題に戻り、陽光あふれるパリの輝かしさに包まれて終わります。

「メヌエツト」;木管楽器による序奏の後、ヴァイオリンによって、一抹の哀愁を秘めた古風な旋律が奏でられます。中間部は木管楽器によって次々とメロディーが紡がれていき、木管楽器の聞かせ所と言えましょう。この楽章のみコーラングレ(イングリッシュ・ホルン)が使われています。その音色も聞き所です。

「バレエ」;弦楽器による躍動的なメロディーに始まった後、ややテンポの速いワルツへと移ります。その後、めまぐるしく曲想が入れ替わって、明るく華やかなフィナーレを迎えます。(T)

●交響曲第3番(ファランク)*日本初演

皆さま、ルイーゼ・ファランク(Louise Farrenc,1804-1875)をご存知でしょうか。本日いらしていただいた方は、ご存知の方が多いかもしれません。が、おそらく、交響曲第3番を実演でお聴きになるのは初めてかと思えます。

私がファランクとその作品に接することになったのは、職場である国立女性教育会館の女性アーカイブセンターで、2008年から、さまざまな分野においてチャレンジした女性たちのあゆみをたどるシリーズ企画として毎年行っている企画展示で、昨年「音楽と歩む」をテーマにしたためです。

ちょうど1年前あたりから取り上げる女性たちを検討している中に、ファランクが交響曲も作曲したことを知り、YouTubeで検索したところ3曲の交響曲がヒット。曲の内容も編成(弦5部、木管・ホルン2管、ティンパニ)も、ディマンシュにこれはぴったりでは!と、選曲会議に出して賛同を得ました。

彼女の生涯については、本日配布しております、企画展示に多大なる協力をいただき、女性作曲家の発掘・紹介に力を注いでおられる、国立音楽大学名誉教授の小林緑先生の人物紹介シートでお読みいただけたらと思えますが、年代としては、ファニー・メンデルスゾーン(1805-1847)、クララ・シューマン(1819-1896)の同時代人で、古典の伝統を踏まえたロマン派です。本日前半に演奏するフォーレ、ドビュッシーが歴史に残り、ファランクが女性であったから以外に、なぜ忘れ去られたかに関する考察は、「音楽・女性・ジェンダー——クラシック音楽界は超男性世界!」の、第41回「クラシック音楽の問題点(11)有名名曲は資産?アルカンのコンサートを準備しながら」谷戸基岩、2013.11.28をご覧ください。

<http://www.news-pj.net/npj/kobayashi-midori/index.html>

まだまだ書きたいことはあるのですが、紙面がつかまりました。ファランクの残した、素敵なお楽しみいただけたらうれしいのですが、もし自分たちも演奏したいという方がいらっしゃいましたら、ぜひご連絡ください。(森 未知)